



## 川原っ子の自慢

教務主任 堀田 洋子



川原小学校が最後となる今年、児童会では「ありがとう川原小学校、こんにちは新小学校」をテーマに様々な企画を立てています。給食委員会の「ラストイヤーリクエスト献立」、図書委員会の「閉校記念読書すごろく」等です。川原小学校の、今を存分に楽しんでいます。

放送委員会では、新小学校で一緒になるお友達に川原小学校の様子を紹介しようと、ビデオレターを制作しています。制作につけて、各学年に川原の自慢をアンケートしたところ、挨拶が元気がよい、学年関係なく仲よく遊んでいる、下学年に優しい、相手を思った行動ができる、ハーブ園がある等々、が挙がりました。どの学年も、川原のよさを受け

継ぎ、実感しているのだなと思いました。

私は、加えて素直な心と、協力し合う力、を挙げたいと思います。今年、学習発表会で全校合唱を披露するのですが、どの学年も素直に声を出し、聞いている人に届くように一生懸命に表現しています。心をつにしようという思いが伝わります。

残り5か月余り、このよさに磨きをかけ、自信をもって新しい学校へ進んでいくことができるように、支援していきたいと思います。

## タイムカプセル開封式に参加して

なかよし学級担任 橋本 広美

今年の8月13日、本校で創立100周年に埋設されたタイムカプセルが開封されました。20年後の開封予定が閉校事業の一つとして今年度実施することになったということで、テレビや新聞でも報じられていました。実は前日の12日、横田小学校でも創立130周年の2005年に6年生が卒業記念として埋設したタイムカプセルが予定よりも2年早く開封されました。

横田小学校で当時6年生を担当していた自分に7月、開封式の案内が届きました。当日、実行委員の教え子に労をねぎらう言葉をかけると、知らぬ間に準備がしてあったとのこと。おそらく、当時の学級役員や保護者の方々が、忙しい子供たちに代わり、開封に向けての準備を進めてこられたのでしょう。開封式に保護者の方の姿はありませんでしたが、タイムカプセルを埋めた場所があらかじめ掘り起こしてあり、簡単に取り出せるようになっていました。また、開封時に通信費等の費用がかかることを見越し、卒業積み立てのお金が残してあったと聞き、有難い気持ちでいっぱいになりました。

さて、卒業生55名のうち、半数近くが集まり、18年前の自分からのエールと家の人からのメッセージを受け取りました。6年生のときの自分に出会い、懐かしいような照れ臭いような表情で読んでいる姿が印象的でした。30歳になった教え子たちは、社会に出て働き、家庭をもち、親となっている人もいました。栄養士や教員の道に進んだ人、自動車の製造や設計に携わる人、家業を継ぎ、板金の仕事に就いた人等、それぞれが自分の仕事に誇りをもって語る姿が眩しく、頼もしく感じました。

小学校卒業から20年近い年月を経て大人になった教え子に出会ったとき、一人一人の得意なことを伸ばすこと、可能性を見付け、引き出していくこと、子供たちが将来の道を拓くことができるように支援することが教員の大切な役目だと実感しました。

